

事業報告

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

1. 総括的概要

昨年 12 月 4 日青森県民の思いを乗せた東京・新青森間の新幹線が開業致しました。これからの経済効果に大きく期待を膨らませて新たな年に臨んだ平成 23 年。しかし去る 3 月 11 日午後 2 時 46 分マグニチュード 9.0 という日本の歴史上最大の東日本大震災が発生しました。死者行方不明者も 2 万人を超え、避難生活を強いられている方々も 40 万人を超えていたと発表されておりました。亡くなられた方々には心からのご冥福をお祈りすると共に東北関東の復興へ向けて、私達それぞれに何が出来るか本当に向き合って行かなければならないと強く感じております。何よりも私達には仲間がいます。この様な時だからこそ皆と足並みを揃え共に助け合い、心をつちにして前を向いてこれからも進んで参ります。

平成 22 年度の委員会事業として「総務委員会」と「地域密着委員会」を軸として組織を作り、地域密着委員会には目的別の各部会をつくりスピード感のある活動を目指しました。

「イベント部会」では食を通して地域を盛り上げる目的で開発した B 級グルメ「バラ焼きドッグ」で県内各地のイベントに参加し国際色豊かな三沢らしさをアピールして参りました。その結果県内における三沢という知名度を上げる為の一翼になれたのではないかと感じております。

「あいさつ部会」では市内のイベントに於いてのあいさつ運動に力を入れました。商人としての基礎であるあいさつを通し三沢に元気を表現して参りました。特に昨年のアメリカンデーでは一般の方々への挨拶運動へ参加協力を呼びかけ 100 人を超す市民の皆様と県内外からのお客様に対して元気良く「ようこそ三沢へ！」の声でお迎えを致しました。その中でも県外から来た観光客が大変感動して、一緒に参加させて欲しいと言う声を頂き挨拶の輪が広がっていく素晴らしい出来事にも出会える事が出来ました。改めて声を出して挨拶をする事の大切さを学びました。

「他団体連携部会」では市内の各団体への協力支援を目的とし青年部員のマンパワーの協力を行い共に地域の為に汗を流しました。他団体との交流と相互理解の場を創り、これからの活動に於いて必ず必要になってくる「人と人の繋がり」のきっかけとなった事と信じております。

「総務委員会」におきましても部員拡大事業を企画し新たな多くの仲間を迎える事が出来ました。地域振興事業である「みさわ七夕まつり」はアメリカ広場をメイン会場として開催し大きなトラブルもなく好天に恵まれ大盛況のうちに終了する事ができました。「クリスマスフェスタ」ではイルミネーション飾り付け以外にも皆様から善意を募り、市内の幼児施設を回り子供達へ多くのプレゼントを贈ることができました。

こうした一年間の活動を通し地域の方々との触れ合いや、子供達の笑顔に出会う事ができました。そして何より汗を流し活動を共にしてくれた部員達との繋がりを深められた事が、今後の地域振興活動における大きな源になると確信致しております。この 1 年間の部員一人一人の汗が大きな活動の原動力であった事に心から感謝致します。

結びに、冒頭にも述べましたが平成 23 年という年は決して忘れる事の出来ない私達の心に暗い影を落とす年となります。しかし私達は先へ進まなければなりません。今だからこそ共に【思い】という足並みを揃え、【信念】という【光】を強く放つものと信じます。

平成 22 年度 三沢市商工会青年部
部長 竹林 大輔